

「小さな物語」から始めよう

校長 城 美 博

この冬は、何度か寒波に見舞われたものの、ここまで積雪を伴うような降雪はなく、季節は駆け足で春へと向かっているようです。いよいよ3月1日(火)には卒業証書授与式を挙行いたします。高校1年生の終わり頃からコロナ禍に翻弄され続けた3年生の皆さんも、この佐世保西高校を巣立ち、新しいステージへと赴きます。

皆さんが、これから飛び込んでいく社会は、先行き不透明な様々な問題を内包していることは疑う余地がありません。「Society5.0」という、サイバー空間とフィジカル空間を高度に融合させたシステムによって開かれるこの社会は、同時に気候変動に代表される自然環境の破壊と、貧困や格差に現れる社会環境の破壊という大きな矛盾を抱え込んでいます。そんな中で、私たちはどのように考え、生きていけばよいのでしょうか。

ひとたび世界に目を向ければ、民主主義や資本主義といった近代の理念が問い直される「大きな物語」の時代を迎えていると思います。しかし、広い世界の中であふれる課題に、処方箋はそう簡単には見つかりません。そんな時には、足元の地域社会に視線を据えて「小さな物語」から考えたほうがよいのではないかと思います。

例えば、社会の分断を助長する不寛容な「トランプ主義」や、国際社会の構造として固定化しつつある米中対立などは、私たちを不安にさせますが、地域社会が寛容で温かいものであれば、暮らしに安心をもたらし、社会の安定を支えます。このことについて、経済学者の神野直彦・東大名誉教授は、「人間的な温かみのある地域社会を取り戻すことは、グローバル化した『市場の失敗』の克服につながる」と指摘しています。

佐世保西高校では、「総合的な探究の時間」を中心に、「ふるさと創生大作戦」を展開し、まさに地域社会のことを考える「小さな物語」へのアプローチを試みています。皆さんが未熟ながらも、不完全ながらも、知恵を絞って取り組み作り出した提案は、様々な人々を動かし、新たな気づきや学びを多くの人に、そして皆さん自身にもたらしたと思います。その中で、これまで気づけなかった佐世保市という地域の歴史や人々の生活といった「文化」を再発見できたことも多かったのではないのでしょうか。

日本映画を代表する是枝裕和監督(「万引き家族」などの作品で知られる)は、カンヌ映画祭で最高賞を取った時、「人々が国家とか国益という『大きな物語』に回収されていく中、映画監督ができるのは、多様な『小さな物語』を発信し続けることで、それが文化を豊かにする」と語りました。「小さな物語」は文化を豊かにするのです。

皆さんには、この佐世保西高校を卒業し、たとえ長崎県を離れても、居住する地域社会で生きる一人の人間として、いたずらに「大きな物語」にばかり心を奪われるのではなく、身の回りの「小さな物語」に心を寄せる人になってほしいと、私は願ってやみません。

最後まで粘りぬけ! 56回生!

1月15日(土)・16日(日)の2日間、大学入学共通テストが実施されました。今年の受験会場は久しぶりに長崎県立大学佐世保校でした。いったん落ち着きを見せたかのように見えたコロナウィルスの感染拡大も、年が変わるとオミクロン株の爆発的な流行により、受験直前になって国による様々な対応策がニュースを騒がせたり、受験会場の県立大学でも受験生以外の入場や受験生控室の利用などに制限を設けたりするなど、平常心を保つのが非常に難しい状況の中での受験となりました。当日の朝、土曜日は曇り空、日曜日は時折冷たい小雨が降る中、大学の正門前では、「西高魂」の幟をもって駆けつけてくださった先生方の声援を受けて、生徒それぞれが緊張した表情で会場の指定場所に集合しました。集合場所で仲間の顔を見つけると、それまでの緊張した顔にも笑顔が戻り、思い思いに談笑して気持ちを落ち着けたり、直前までわからないところを教科担当の先生に質問したりする姿が見られ、いつも通りの56回生の姿にたくましさを感じました。

今年度の入試は昨年に続いて2回目の大学入学共通テストということで、何もかもが手探りだった昨年に比べると、試験の内容や傾向もおおよそ把握できたこと、一方で昨年度が難化の予想に反して前年より大きく平均点が上がり、その反動で今年度は難易度が上がる可能性があることなどに留意しながら、しっかりと各教科の準備を進めてこの日を迎えました。2日間にわたった共通テストですが、初日に東京の別会場でいたましい傷害事件が起こったことで2日目は全国の会場で一気に警備が厳重化されパトカーが巡回するという予想外のハプニングはあったものの、それ以外は大きな混乱もなく予定通り試験が実施され、56回生も全力を出し尽くし無事に大学入学共通テストを終えることができました。

今年度の共通テストは、7科目がセンター試験を通じても過去最低の平均点となり、多くのマスコミが取り上げるほど難化が著しいものになりました。特に数学ⅠA、ⅡB、生物、化学、そして日本史Bについては選択する生徒も多く、特に多くの理系生徒にとっては大きな影響が及ぶものとなりました。56回生の中にも、今まで頑張ってきた力を十分に発揮できず落ち込む生徒も少なからず見られます。しかし、共通テスト難化のあおりを食ったのは全国のライバルたちも同じです。ここから気持ちを立て直し、二次試験に向けてギアをもう一段高めてほしいと思います。

共通テストが終わった2日後には、ベネッセコーポレーション顧問で元長崎西高校校長の田川祐治先生にご講演をいただきました。田川先生による講演は、共通テスト前にお話しをいただいて以来です。絶対にこの大学に行きたいという、譲れない強い気持ちを持って最後まで粘り抜くこと、二次試験に向けて予習を徹底し妥協のない姿勢で授業に臨むことなど、先生の経験やデータ分析を踏まえて熱く語っていただきました。

いよいよ、次は進路実現に向けた最後の挑戦、国公立大学二次試験です。受験科目もその多くが自分の得意とする科目に絞り込まれ、記述式の答案には自分の思考をしっかりと表現する力が求められます。残された時間はそう多くはないかもしれませんが、最後まで粘り強く戦い続けてほしいと思います。この挑戦で学び身につけたものは学力以上のものとなって、生涯にわたって生徒の皆さんを支える力となるはずです。

がんばれ! 56回生!



田川祐治先生による講演会

総合的な探究の時間 (第2学年より)

文系課題研究

第2学年文系クラスは、9月中旬から『SASEBO 仕事図鑑』作成に向けて動き出しました。佐世保で働く人たちにインタビューを行い、仕事の魅力や働く意味などを記事にまとめて冊子を作るという取り組みです。仕事に対する多様な価値観を認識し、自らのキャリアについて考えを深めることを主な目的としています。

志望する学部系統別に班分けをし、班ごとに自分のなりたい職業やそれに関連した仕事をしている人をターゲットに選びました。事前準備として外部講師を招いてワークショップを行い、質問内容の決め方や事前調査の仕方、インタビューの際に気を付けておくべきマナーなどを学びました。

11月18日、一斉に取材に出かけました。学校関係、公的機関、法律事務所、医療機関、ホテルなどのサービス業、ケーキ店などの自営業など、様々な職種の方々から直接貴重なお話を聞くことができました。記事に載せるための写真も撮らせていただきました。

取材後は記事作成に取りかかりました。仕事内容だけでなく、仕事への熱い思い、児童生徒やお客様への気配り、佐世保で働くことの意義などを、わかりやすく読みたくなるような表現になるよう心がけました。2月下旬に他の班の取り組み内容を知るための報告会を開催します。

この仕事図鑑作成が、生徒にとって職業観を深く考えるきっかけになっていることを願っています。完成した冊子はインタビューを受けてくださった方にも進呈する予定です。

理系課題研究

2月24日(木)の6・7校時に、「理系課題研究発表会」が行われます。9月ごろから、大学や様々な研究機関と連携をして、研究活動を進めてきました。調査したことを確認するために、また、最先端の研究姿勢や施設を肌で感じるために11月にはフィールドワークにも行きました。現在生徒は、研究発表会に向けてパワーポイントを使ってまとめる作業に取り組んでいます。体験したことを発表するにとどまらず、さらに考察し、次なる仮説を設定する提案がなされると期待しています。以下に、本年度の連携先とテーマの一覧を掲載いたします。

- | | |
|--|------------------------------------|
| ① 佐賀大学海洋エネルギー研究センター
【海洋エネルギー発電】 | ⑥ 長崎国際大学薬学部
【光触媒の作用】 |
| ② 佐賀大学ダイバーシティ推進室・医学部看護学科
【理系女子・看護の意味】 | ⑦ 長崎総合科学大学総合情報学部
【電子基盤、ロボット】 |
| ③ 長崎大学情報データ科学部
【VRの世界】 | ⑧ 九十九島水族館海きらら
【クラゲの生態、イルカの獣医業務】 |
| ④ 長崎大学工学部
【構造物(橋)の強度や実例】 | ⑨ 佐世保市役所環境政策課
【絶滅危惧種】 |
| ⑤ 長崎大学医学部保健学科作業療法
【高齢者の転倒事故を科学的に考察】 | ⑩ 京都大学理学部大学院
【数学、論理】 |



高校生アントレプレナーシップゼミ 最終発表会 (第2学年より)

1月30日(日)、オンラインにて「高校生アントレプレナーシップゼミ最終発表会」が行われました。この取組は長崎県の、「将来起業したい!!」という高校生21人が、様々な取り組みを通して考えた「起業プラン」を提案するものです。一番のポイントは、“アイデア”ではなく“プラン”であることです。実際に起業するにあたり、収支計算や場所の選定を具体的に行うことで起業家精神を育成していきます。本校の2年2組 永安蒼天さんは、他校の生徒2名と「グルメミュージアム(道の駅+子供食堂)」という表題で発表いたしました。コロナ禍ということもあり、自らオンラインの会議を開催しチーム3名で少しずつ作り上げてきました。この経験は、きっと将来の指針になるようなものだったと思います。

来年は、新2年生や新1年生(現中学3年生)の皆さんの活躍を期待しています。

部活動の結果報告

<陸上部>

令和3年度全国高等学校体育連盟陸上競技専門部表彰

2級 種目 4×100mR 大串翔大(3年) 森豪太(2年)
岩村勇希(2年) 中川穂泉(1年)



<女子ハンドボール部>

長崎県高等学校一年生ハンドボール選手権大会 優勝

第2回みやざき整骨院杯長崎県高等学校男女ハンドボール選手権大会 第3位



<図書文芸部>

令和3年度長崎県高等学校総合文化祭文芸コンクール

部誌部門 佳作 「文雅」
俳句部門 佳作 北村由依菜(2年)
散文部門 佳作 江山綾彩(2年)

《3月の行事予定》

1	(火)	第56回卒業証書授与式
5	(土)	スタディーサポート(1年) 特別講座(2年)
8	(火)	高校入試後期選抜1日目 総合的な探究の時間フィールドワーク(1年、~10日) 自宅学習(2年、~10日)
9	(水)	高校入試後期選抜2日目
12	(土)	国公立大学後期試験
12	(土)	特別講座(1・2年)
14	(月)	校内球技大会(2年・午後)
15	(火)	校内球技大会(1年・午後)
16	(水)	高校入試後期選抜合格者発表(掲示9:30、Web9:50) 高校入試追検査
17	(木)	合格者登校日(スタディーサポート、合格者対象説明会、物品販売)
18	(金)	ふるさと創生中間発表(1年)
24	(木)	後期終業式 離任式
25	(金)	春季学習会(1・2年、~28日) 合格者体験発表会 転入考査

